

平成 28 年度

安芸高田市
竹チップ de 生ごみ
コンポストモニター



モニター番号	氏名

竹チップとは…

放置竹林・竹やぶを整備した際に、ごみとして廃棄される竹を資源として活用するために粉状にしたものです。



チップパー(粉碎機)による竹の粉碎



堆肥の基材となる竹チップ



発酵させた竹チップに生ごみを混ぜる

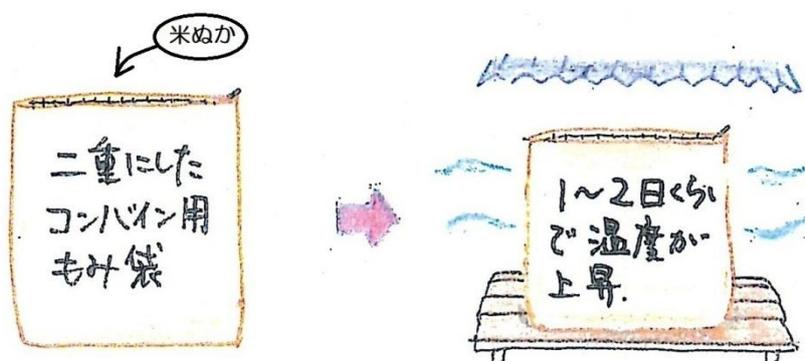


分解された生ごみ

竹チップ de 生ごみコンポストの使用方法

生ごみコンポストの使い方

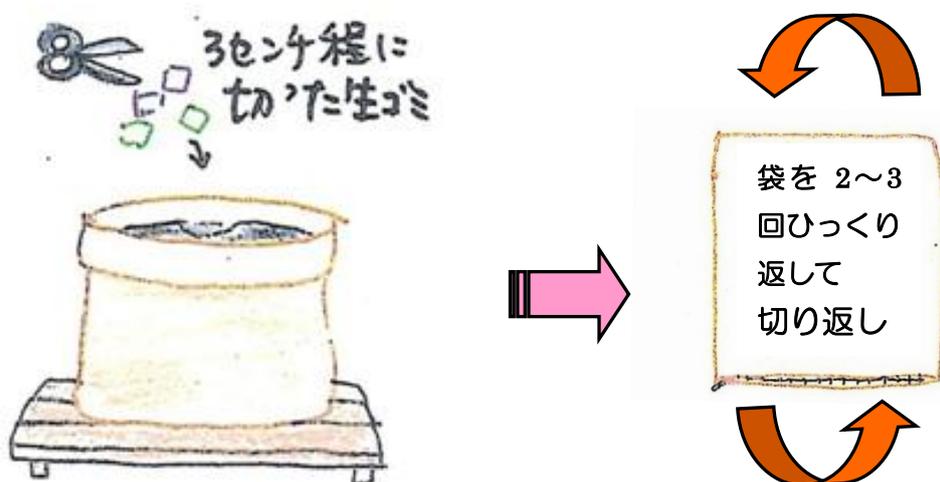
1. お渡ししたコンバイン袋に米ぬかと水 500ml を投入し、基材全体に混ぜ込んでください。
混ぜ終わった袋はスノコ等の上に置くなどして通気を良くし、雨の当たらない・風通しの良い場所に置いてください。(苗用のプラケースでも可)
直射日光の当たらない 15℃以上のところに置いてください。



2. 生ごみを 3cm ほどにキッチンバサミなどで小さく切って、1 日約 250~500g を目安に、基材に埋め込んでください。
生ごみ投入後はチャックを 2 重にしっかりとめてください。

※投入できない生ごみについて

- 貝殻、かにの殻、大きい魚の骨、肉類の骨などの硬いもの
- スイカの皮は一度に大量に投入しないでください。(少し乾かしてから少しずつ入れてください。)



毎日の管理と注意

- ・できるだけ毎日生ごみを投入し、良くかきまぜる。
- ・投入量は 1 日平均 500g(250～600g)で、3 カ月以上処理できます。
- ・生ごみは腐ったり、虫が産卵しないうちに投入する。
- ・基材の温度（20～30℃）が下がると分解が進まなくなるので、米ぬか一握り(50～100 グラム)や、食用廃油(100～200ml)を混ぜ込んでみてください。
- ・基材が乾いてきたら、水分を 500ml ほど補給してください。
- ・生ゴミが目立ってきたり、水分が多くなってベタついてきたら、袋を 2～3 回ひっくり返して、切り返しを行って下さい。
- ・気温が 10℃以下に下がると分解が進みません。
- ・3 カ月くらいで基材がべたついたり、ダマになったら生ごみの投入を終了し、熟成させてください。

熟成

- ・生ごみの投入を終了し、引き続き 10 日間くらい毎日かき混ぜてください。
- ・その後、雨に当たらないところで、週に一度切り返しを行い、1～2 カ月寝かせてください。
- ・生ごみの形がなくなって温度が上がらなくなったら完成です。

ワンポイント

- ・コバエなどの虫が発生したら、刻んだハーブ投入するか、木酢液などを霧吹きで散布してください。殺虫剤は使用しないでください。
(コバエコナーズなどを使用してください。)
- ・ウジは生ごみを分解する協力者ですので、駆除しないようにしてください。
(大きなウジは、アメリカミズアブの幼虫です。)
- ・虫が袋から出ないようにしっかりと袋のチャックを締めてください。
- ・完成したコンポストをご使用される時、プランターにご利用される場合は堆肥 1 に用土 3 の割合で使用してください。
- ・畑にご利用される場合はそのままお使いください。
- ・生ごみの量が増えて袋の 2/3 以上になりますとごみの分解が進まなくなるので、ごみの投入は 1～2 週間ほど控えて、袋をひっくり返して切り返しを行ってください。ベタつきがなくなれば使用を再開してください。